

令和5年10月4日（水）

「成功も失敗も、小さなことの積み重ね」

2週間後には、1、2年生は地区の新人大会、3年生は実力テストが実施されます。それぞれ、予定通り準備は進んでいますか？

今回は、「ハインリッヒの法則」について触れます。「ハインリッヒの法則」は、アメリカの保険会社の調査部にいたハーバート・ウィリアム・ハインリッヒという人が導き出した法則で、別名「1:29:300の法則」とも呼ばれています。工事現場の1つの大きな事故の背景には29の小さな事故があり、その背景にはさらに300のヒヤリハット（大事には至らなかったけれど、ヒヤリとしたり、ハッとしたりする瞬間のこと）があるというものです。

これは医療現場や工場などでも幅広く取り入れられている考え方で、大きな事故を防ぐには、ヒヤリハットの段階から対処していくことが必要だと教えてくれます。ヒヤリとした時に、「大事に至らなくて良かった」と思うのではなく、「わずかな差で大事故になっていたかもしれない」、「なぜヒヤリハットが起きたのか」を考えることが事故を防ぎます。

勉強や部活動の練習で日々の積み重ねが大事だということは、何度も聞いたことがあると思います。しかし、皆さんが積み重ねているのは、プラスの要素だけではなく、同時にマイナスの要素も積み重ねているのかもしれない。

「授業中に気が抜けてしまった」、「宿題を忘れた」、「小テストで計算ミスをした」、これらの積み重ねが、受験本番での大きなトラブルにつながる可能性があります。小さなことだから「大したことない、大丈夫だ」と考えていると、思わぬところで足元をすくわれるかもしれません。これは部活動も同様です。（勝てると油断していると・・・）

ヒヤリハットは誰でも起こりえることで、様々な原因があります。1つでも不安な要素を減らしつつ、日頃の勉強や部活動の練習を進めていきましょう。

※ 地区駅伝大会に出場した皆さんへ

一人ひとりが必死に襷を繋ぐ姿、また、それをサポートする人たちの配慮に感動をもらいました。ありがとうございました。